

もんし 聞思

発行所 光山寺
〒758-0063
萩市 大字山田4553
TEL (0838) 22-1370
http://kousanji.net

生かされて 生きてきた
生かされて 生きていく
生かされて 生きていく
手を合わす 南無阿弥陀佛
中村静村

正当御要法遠大750回聖人驚親

ご本山では平成二十三年四月より五十六日間百十座、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が勤修されてきました。

祥月命日(一月十六日)に際しては、御正当の忌日(命日)に聖人のご恩徳を報謝する法要として、毎年一月九日から十六日までの八日間、「御正忌報恩講」をお勤めしています。

そして、五十年ごとの節目にあたる、親鸞聖人の年忌法要を「大遠忌」と称して、特に大切にお勤めしています。本年一月は、まさにこの宗祖親鸞聖人の七五〇回大遠忌にあたる御正当となります。既に、団体参拝での各地域からの参拝は終了していますが、この御正当は五十年の一度のご勝縁です。法要に参拝された方も、都合で参拝できなかった方も、是非ともこのご縁に参拝いただきまますよう重ねてご案内申し上げます。



基本日程

時間	内容	場所
5:00	開門 ※9日は5:30	
6:00	晨朝	阿弥陀堂 御影堂
晨朝後	帰敬式 ※16日はごさいません	阿弥陀堂
9:30	総局挨拶、記念法要	
9:45	縁儀	御影堂
10:00	日中法要 ※16日は日中法要後御門主様より御消息発布	
日中法要後 引き続き	帰敬式 ※9日は12:30 ※16日は13:30	阿弥陀堂
13:30	総局挨拶、記念法要	
13:45	縁儀 ※9日は御親開につき縁儀はごさいません	御影堂
14:00	遠夜法要	
15:30	初夜 ※14日は御俗姓に引き続き ※15日は18:00	御影堂
17:00	閉門 ※13-15日は日没動行後	

9日初夜「改悔批判」御門主様御親読
14日遠夜法要に引き続き「御俗姓」新門様御拝読

日中・遠夜法要内容(依用作法)

- 9日遠夜(初遠夜) 大師影供作法
- 10日日中~12日日中 宗祖讃仰作法
- 12日遠夜(中遠夜) 浄土法事讃作法
- 13日日中~15日日中 宗祖讃仰作法(音楽法要)
- 15日遠夜(大遠夜) 広文類作法
- 16日日中(満日中) 報恩講作法

岡悦子さん秋の叙勲にて瑞宝単光章を受賞

昨年の秋の叙勲にて、光山寺門徒で住の江保育園保育士、**岡悦子さん(玉江一区)**が**瑞宝単光章**を受賞されました。この瑞宝章は、長年にわたって従事し、成績を挙げた者に与えられる勲章で、今回、岡さんは長年の保育士としての功績が讃えられました。また、この叙勲に対して、本願寺派総長(橋正信)よりも表彰を受けられましたので、ご門徒の皆さんにご報告致します。

山口別院で東日本大震災追悼一周忌法要

去る三月十一日に発生しました東日本大震災によって、現在も行方不明のお方が五千人近くおられ、且つ原子力発電所の事故によって、汚染除去も進展せず故郷に戻れず、避難生活を余儀なくされている方が多くおられます。宗門では、緊急災害対策本部を設置し、義援金活動をはじめボランティア等、物心両面にわたる支援をさせていただきます。また、すべての被災された方々の悲しみに寄り添い、思いをわかちあいたいとの願いのもと、ご本山では親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が昨年四月より勤修されています。

あの未曾有な大震災から一年が経過しようとしております。山口別院では、大遠忌法要と同様な心持で、標記一周忌法要を左記の通り、常例法座に併せてお勤めさせていただきます。どうか有縁の方々お誘い併せのうえ、ご参拝いただきますようお願い申し上げます。

記

- 一. 日時 二〇一二(平成二四)年三月五日(月) 午後一時三十分
- 二. 場所 本願寺山口別院本堂

光山寺行事案内

平成二十四年の光山寺前期行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

★萩組・光山寺法要関連

- 一月八日(日曜) 午前十一時半 最勝講(玉江地区)
- 一月二九日(日曜) 午後七時 萩組連続研修(満行寺)
- 一月二二日(土曜) 午後三時半 萩組基幹運動研修会(清光寺)
- 三月三日(土曜) 午後七時 萩組連続研修(萬福寺)
- 五月二・二日(日・月曜) 春季永代経法要(講師、香川孝志師)

★子供会(日曜学校) 関連

- 一月九日(月曜) 午前十一時 子供報恩講
- 以降、二月八日(土曜)・三月十七日(土曜)
- 四月二日(土曜)・五月九日(土曜) 午前九時より開催

★仏教青年会 関連

- 一月九日(月曜) 午前十一時 子供報恩講と同時開催
- 一月二二日(日曜) 午後二時 萩組ボウリング大会(袋さき)
- 三月二七日(日曜) 午後三時 光山寺庫裏

★仏教壮年会 関連

- 一月二二日(日曜) 午後二時 萩組ボウリング大会(袋さき)
- 五月 下旬 午後七時半 光山寺仏教壮年会総会

★仏教婦人会 関連

- 二月下旬・四月中旬 光山寺仏教婦人会常任委員会・全役員会
- 五月二〇日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式

★親鸞聖人讃仰会(登録制・要年会費二千元)

- 四月十六日(月曜、午後八時)・六月一八日(月曜) 以降、隔月第三月曜日午後八時光山寺庫裡にて開催。十月まで。

★礼讃の夕べ(旧、正信偈唱和会、一般参加可・無料)

- 五月二二日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 六月九日(土曜) 午後八時 光山寺本堂

以後、毎月第二土曜午後八時開催。十月まで六回開催。

★雅楽練習会

- 一月二二日(日)・三月十一日(日) 原則日曜午後七時半。不定期開催。

※コーラスの日程についてはお問い合わせください。

山口別院定例法座・毎月五日午後一時半(一月は十時半)

萩こころの電話(三分間法話) ㉞25-7710

西本願寺の時間(KRラジオ) 毎週日曜日午前六時から六時十分

■仏教壮年会研修・忘年会■

光山寺仏教壮年会（会長、西島孝一）では文化部（野村謙次部長）の研修並びに忘年会を十二月二十四日（土）午後六時より光山寺本堂にて開催しました。

今年度は講師に萩博物館副館長、樋口尚樹氏をお迎えして、「日本の近代を拓いた萩の産業人脈〜藤田伝三郎とその時代〜」と題して、日本の近代化をなした地元の産業人である藤田伝三郎を中心としてお話ししていただいた。藤田伝三郎は関西財界のリーダーの源流で、久原房之助（伝三郎の甥）・田村市郎（伝三郎の甥）・鮎川義介（房之助の義兄）ら萩ゆかりの実業家達は、明治維新以降、近代化の潮流の中で、自動車・鉄道車両・金属・水産・観光など現在の日本の代表をする企業の基礎を築いた。彼らの夢と情熱をかけた挑戦の軌跡を詳しくお話いただいた。現在、萩博物館では、藤田伝三郎翁生誕一七〇年記念として「藤田伝三郎とその時代」、日本の近代を拓いた萩の産業人の展示をしている。（四月十日まで）日産のダットサンも展示されているのでファンの方は是非とも来館していただきたい。

また、研修会修了後は、本年も三隅の極楽寺仏教壮年会会員三名と光山寺仏教婦人会役員の皆さんも参加され、賑々しく忘年会が庫裏にて開催されました。

■募金箱報告■

WWF J（世界自然保護基金日本委員会）の募金箱（焼香机よこ）に集まった募金八千六百七円を十二月十二日送金いたしました。沢山の募金大変に有り難うございました。

WWF Jは、東日本大震災前より日本のエネルギーの未来を変えるために、環境保全の視点を政策に、現実的・具体的な道を描く、政府案に対する代替案を出す、温室ガスの削減目標を求める、既成概念を変えていく、エネルギーへの関心を高めるなどの活動を積極的に進めている。

■初参式のお知らせ■

親鸞聖人の誕生月である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施している。今年も五月二〇日（日曜日）午前九時半より光山寺にて開催されます。生後一年くらいまでのお子さんが対象となるが、仏の子として育つため仏教のご縁に初めてあう合同の初参式です。参加希望の方はお子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。尚、当日参加できない方は個別の初参式や自宅で初参式も受け付けていますので、是非お申し出ください。



■親鸞聖人鑽仰会会員募集！■

親鸞聖人のみ教えを鑽仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人鑽仰会」を今年も四月十六日よりスタートします。新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず広く親鸞聖人のみ教えを仰ぐ方々の集まりです。年会費は二千円で二ヶ月に一回の開催。西本願寺の「季刊せいてん」を中心に学習します。浄土真宗聖典註釈版が必要となりますが、お持ちでない方は申し出てください。偶数月第三日曜日から午後八時開催となりますのでご注意ください。詳しい申込みについては別紙にてご確認ください。

■法話 「ロウソクのいのち」■

宇野 哲哉 （中央基幹運動推進相談員）

本願寺新報（平成二二年）四月一〇日号掲載
〈根深く続く差別〉

今から八七年前の一九二二（大正十一）年三月二二日、京都の岡崎公会堂において水平社が結成されました。部落差別からの解放を願う、「人間を尊敬することによって自らを解放」することをめざし、水平社運動が立ち上がったのです。その時、採択された『水平社宣言』起草執筆したのは、西光万吉という奈良県の被差別部落の青年でした。彼は浄土真宗本願寺派の僧侶でもありません。水平社運動は、その後の宗門の同朋運動に大きな影響を与えたといわれています。長い封建時代が終わりを告げ、明治維新の「解放令」によって被差別部落は解放されたはずでした。しかし、差別は根深く続きました。被差別部落の人々は世間から排除され、仕事も限定されて、日々の暮らしも貧しいままでした。当時は、差別を受ける多くの人々が、差別を受けることは仕方がないこととしてあきらめていました。この状況を前にして、西光

は親鸞聖人の御同朋・御同行のみ教えをもとにして、「人間として誇りをもって生きるために、今こそ声を上げていこう」と考え、その願いを水平社宣言に託したのです。私はお仏壇の前に座るたびに、この水平社宣言の有名な「人の世に熱あれ、人間に光ありあれ」という結びのことばを思い出します。

〈熱と光あたる役目〉

お仏壇の荘厳（しょうこん）のひとつであるロウソクが私たちに教えてくれています。ロウソクは、時間が経てばやがてロウが融（と）けて、芯（しん）も焦（こ）げて、火は消えて、必ず無くなってしまう。

まいます。火がつくことは誕生であり、火が消えることを死に喩（たと）えるならば、一本のロウソクの長さは、平均寿命みたいなものでしょうか。しかし、どれだけ長く太いロウソクでも、急な強い風に吹かれたならば、一瞬にしてその火は消えてしまします。それは、どれだけ若くて健康な人でも、急な事故や病気で一瞬にしていのちを失うことと同じです。無常の風に吹かれたならば、いのち終わってゆかねばならない。ロウソクは、まさに、私のいのちを教えてくれているのです。みなさんは、ロウソクの長持ちのさせ方をご存じでしょうか。ひとつだけ方法があります。それは、ロウソクに火をつけたいこと。このロウソクをずっとお仏壇に置いておきたいと思うなら、火をつけたらだめです。火をつけた途端、ロウが融けて、芯が焦げて、そしてロウソクは跡形も無く消え去ってしまうからです。しかし、ロウソクに火をつけなかったなら、ロウソクの役目は果たせません。ロウソクは、火がついてはじめてロウソクの役目を全（ま）つこうするのです。それでは、ロウソクの役目とは何でしょうか。私たちは、漆黒（しつこく）の暗闇の中にあっても、一本のロウソクに火を灯（とも）すことによって、その光りをたよりに歩みを進めることができます。また、どれだけ寒く凍（こ）える中にあっても、一本のロウソクに火を灯し、それに手をかざすことによって、私たちはあたたかさを得ることができます。つまり、ロウソクの役目とは、まわりに熱と光りを与えることなのです。

水平社宣言の「人の世に熱あれ、人間に光ありあれ」の「熱」とは情熱であり、熱あるものは「いのち」とも言い換えることができます。それは、親鸞聖人が願われた普通のいのちの尊厳、「無量寿」であります。無量寿は限りない仏さまのいのちであり、量ることのできないいのちです。つまり、いのちに序列をつけたい、平等「水平」のいのちなのです。そして、「光り」とはまさしく「無量光」、限りない仏さまの光であります。一本のロウソクに私の人生を重ね合わせるならば、それは、まわりの人々にあたたかさや明るさを与えるような人生ではないでしょうか。たとえ、それが自分の身を融かし、身を焦がすことであっても、生きていく限り、燃えている限りは、高らかに炎をかかげて、「人の世に熱あれ、人間に光ありあれ」と、まわりの人々にあたたかさや明るさを与え続ける、そんな人生を歩みたいと思います。

〈いのちに序列つけない〉

水平社宣言の「人の世に熱あれ、人間に光ありあれ」の「熱」とは情熱であり、熱あるものは「いのち」とも言い換えることができます。それは、親鸞聖人が願われた普通のいのちの尊厳、「無量寿」であります。無量寿は限りない仏さまのいのちであり、量ることのできないいのちです。つまり、いのちに序列をつけたい、平等「水平」のいのちなのです。そして、「光り」とはまさしく「無量光」、限りない仏さまの光であります。一本のロウソクに私の人生を重ね合わせるならば、それは、まわりの人々にあたたかさや明るさを与えるような人生ではないでしょうか。たとえ、それが自分の身を融かし、身を焦がすことであっても、生きていく限り、燃えている限りは、高らかに炎をかかげて、「人の世に熱あれ、人間に光ありあれ」と、まわりの人々にあたたかさや明るさを与え続ける、そんな人生を歩みたいと思います。